

日本剣道形 太刀の形解説 一本目

項目	一本目
動作の解説	<p>① 打太刀は諸手左上段、仕太刀は諸手右上段で、打太刀は左足、仕太刀は右足から、互いに進み、間合に接したとき、打太刀は機を見て右足を踏み出し、(1)仕太刀の正面を(2)打つ。 <small>注(1) 仕太刀の柄もろとも打ち下す気構えが大切で、打ち下した剣先は、下段の構えよりもやや低くなる。 (2) 打つということは、切るという意味である。(以下同じ)</small></p> <p>② 仕太刀は左足から体を少し後ろに自然体で引くと同時に、諸手も後ろにひいて、打太刀の剣先を抜き、右足を踏み出し、打太刀の正面を打つ。</p> <p>③ 打太刀が剣先を下段のまま(1)送り足で一歩ひくので、仕太刀は、十分な気位で打太刀を押しながら、剣先を(2)顔の中心につけ、打太刀がさらに一歩ひくと同時に、左足を踏み出しながら、諸手左上段に振りかぶり(3)残心を示す。 <small>注(1) 送り足で二歩ひくことになる。そのときの歩幅は、仕太刀との間合によって大小があることに注意する。 (2) 顔の中心とは両眼の間をいう。 (3) 一本目から七本目まで形(上段または脇構え)の示されていると、いない、にかかわらず、十分な気位で残心を示すことがたいせつである。</small></p> <p>④ 打太刀が剣先を下段から中段につけ始めるので、仕太刀も同時に左足をひいて諸手左上段を下ろし、相中段となり、剣先を下げて(1)元の位置にかえる。 <small>注(1) 立会の間合の位置である。(以下同じ)</small></p>
指導上の留意点	<p>1 打太刀は打ち下す時、反動をつけて打ち下ろさないようにさせる。</p> <p>2 仕太刀は、剣先が下がらないように剣先の方向に抜かせる。</p> <p>3 打太刀は、大技に下段の高さまで打ち下ろすので、打ち下ろしたら上体はやや前がかりになり、そのまま二歩引き、中段になりながら上体を起こさせる。</p>
審査上の着眼点	<p>打 諸手左上段から、反動をつけることなく、仕太刀の柄もろとも正面を打ち、剣先は下段の構えよりやや低く打ち下ろしているか。</p> <p>仕 諸手右上段に構え、打太刀の剣先を、体を後ろにひくと同時に諸手も剣先の方向にひいて抜き、正しく正面を打っているか。</p>

出典:全日本剣道連盟「日本剣道形解説書」より